

福岡新水巻病院が開院して二ヶ月になります。皆様暑い日が続きますがお元気でしようか。

今日は少し学術的な話をいたします。この福岡新水巻病院は三つの柱を掲げて医療を行っています。「救急医療」、「高度医療」、「病診連携」です。その中でも地域の皆様の最大の関心事である「救急医療」についてお話いたします。地域に「住民の皆さんが安心できる救急をきちんとやる、しかも高度の技術と学問的に高いレベルで、さらに夜間だからと若い医師に任せっぱなしにしない二十四時間対応」が福岡新水巻病院の「救急医療」です。

その中で最近あったこれまでこの地域では助からなかったであろう患者さんのお話をします。患者さんは十七歳の男性です。主訴は心肺停止です。気管支喘息の重症発作からあつという間に増悪し救急車が到着した時には心肺停止状態でした。救命救急士より懸命の心臓マッサージを受けながら救急搬送されました。瞳孔散大、心拍停止、呼吸停止、まさに死に瀕した状態です。引き続き救命室での必死の救命処置の結果、心拍が再開しました。しかし超重症型の喘息発作が持続しており、人工呼吸器療法をしても体内酸素はいつこうに上がる気配すらありません。最後の手段に全身麻酔で用いる吸入麻酔薬を加えてみました。多少改善が見られましたが著功したと言える状況ではありません。絶望に近い状態が数日続きましたが少しずつ状態が改善しました。私も二十年近く救急医療をしてきましたが、今回のように心肺停止で発症した喘息発作では低酸素の状況が長くせつかく発作を抑えても脳機能が回復しない患者さんがほとんどです。その状況でも担当した宮園医師は全力で治療に当たっていました。その思いが通じたのでしょうか。その後その患者さんは奇跡的に脳機能も回復し、なんと今では一般病棟で歩行練習をしテレビゲームができるまどになっています。おそらく何の後遺症無く退院できることと思います。彼にはこれから宮園医師より厳しい喘息予防治療が継続されることと思います。いずれにせよ拍手!!!!

毎年全国で何百人もの喘息患者さんが心肺停止を来たすような発作で亡くなっています。喘息の持病がある方はくれぐれも担当医の治療をまじめに受けてください。このように救急患者さんは一刻も早く専門の救急医による処置が為されることが大事です。この遠賀郡に福岡新水巻病院ができて良かったと地域の皆様から言われるようにいつその努力、研鑽を積みみたいと思います。第三章。

